

第1 定時制教育の現状

1 東京都における定時制教育の現状と課題

東京都における定時制教育は、主に働きながら学ぶ勤労青少年に後期中等教育の機会を提供するため、昭和23年に設置された定時制高校において開始された。夜間に授業を行う定時制高校は、施設の効率的な活用の視点等から、ほとんどの場合において、全日制課程と併置される形態をとってきた。

夜間定時制課程の在籍者は、昭和30年代には5万人台で推移し、昭和40年に54,571人と頂点に達した。しかし、全日制高校への進学率の上昇と中学校卒業生数の減少などにより、その後は減少を続け、第2次ベビーブームの影響で増加した時期はあったものの、平成14年には11,755人とピーク時の在籍生数の21.5%にまで減少している。これに対して学校数は、昭和40年度の121校から、平成14年度には100校(17.4%減)まで減少しているが、生徒数に比べて減少の割合は緩やかであり、このことから学校の小規模化が進んでいることがわかる。

夜間定時制課程に在学する生徒についても、非常に多様化してきている。勤労青少年の比率が減少する一方で、小・中学校時代に不登校経験のある生徒や全日制課程の中途退学者等、多様な生徒が入学してきており、勤労青少年の教育の機会の確保という、夜間定時制課程本来の役割が変化してきている。

また、全定併置校が抱える課題や学校の小規模化等に伴う課題への対応も必要になっている。全定併置校には、施設の共用による利用上の時間的制約があり、十分な指導時間が確保できないといった課題がある。生徒数が減少する中で、夜間定時制の小規模校では部活動や学校行事が活発に行われにくい、教員数の制約から多様な教育課程が組みにくいといった課題がある。

さらに、夜間定時制高校には、入学者の約半数の生徒が卒業までに中退してしまう学校があるという実態や卒業後進路未決定者が多いことなど、学習指導、生活指導及び進路指導上の課題は多く、こうした課題に対応し、定時制教育の改善を図ることが強く求められている。

2 昼夜間定時制高校の設置

(1) 新宿山吹高校の設置

夜間定時制課程へ通う生徒の多様化と社会人の学習ニーズに対応するため、平成3年度に、都立高校ではじめての通信制課程を併設した単位制・無学年制の昼夜開講の定時制独立校である新宿山吹高校を設置した。

(2) 都立高校改革推進計画の策定

平成9年に策定された都立高校改革推進計画では、昼間に学ぶことを希望する生徒の要望に応え、全日制課程との併置により生じる諸課題を解決するため、昼夜間定時制独立校を設置することが必要であるとし、新たに6校の昼夜間定時制独立校（チャレンジスクール5校・単位制高校1校）を設置することとした。これまで、平成12年度に桐ヶ丘高校が、平成13年度に世田谷泉高校がチャレンジスクールとして開校した。

平成14年10月に策定した都立高校改革推進計画・新たな実施計画では、多様化する生徒の実態に対応するとともに全定併置校の課題解決のため、三部制の昼夜間定時制独立校の一層の整備拡充を図ることとしている。この計画では定時制独立校として、チャレンジスクールと定時制課程の単位制高校（新宿山吹高校型）に加え、新たなタイプの昼夜間定時制高校を4校設置することとした。

3 昼夜間定時制高校の現状

(1) 新宿山吹高校

新宿山吹高校は、普通科が4部制、情報科が2部制であり、生涯学習講座を併設し、3年間で卒業できる三修制を導入したり、一部科目履修生（聴講生）・学校間連携を取り入れたりしている。

開校以来、普通科第一学年相当では夜間定時制課程に比べて高い応募倍率になっている。

普通科目・情報科目・生涯学習講座は併せて約360名を数え、生徒の多様な学習ニーズに応えている。講座の定員は原則30名であるが、一部科目履修の制度により、科目を、一般都民に対して開放している。

授業は1コマ105分で、午前8時45分から午後9時20分まで切れ目なく授業を行っている。定時制の生徒は、他部の講座や生涯学習講

座、通信制の講座で年間10単位まで履修が可能である。

生活指導の面では、「社会のルールが本校のルール」の方針で、細かな規則は定めていない。そのため生徒は自主・自立の精神、自己責任の考えの下に行動しており、一定の規律ある校風が醸成されている。

(2) チャレンジスクール

チャレンジスクールは、小学校・中学校時代に不登校経験のある生徒や他の高校の中途退学者など、これまでの教育の中では自己の能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒を広く受け入れ、実り豊かな高校生活を送るための教育環境を提供する、単位制・総合学科の昼夜間定時制独立校である。

三部制の学校であるチャレンジスクールでは、例えば、午前部の生徒が午後部の時間帯の授業を受けるといった他部履修が可能であり、生徒は個々のライフスタイルに合わせて、学習時間帯を選択できる。他部履修により、3年間で卒業することも可能である。

チャレンジスクールでは、総合学科の高校として、特色ある系列（専門科目）を設置するとともに、様々な学習歴・学力の生徒に対応した多様な教科・科目を設置している。

基礎・基本を重視した、少人数によるきめ細かい学習指導を行い、また、老人ホーム・保育所等の福祉施設や企業・美術館・博物館などでの体験学習を重視した学習活動の推進を図っている。

さらに、不登校経験のある生徒に対する心のケアを充実させるため、ホームルーム活動を重視するとともに、教育相談担当者・スクールカウンセラー等によるきめ細かなカウンセリングに努めている。

入学者選抜については、不登校経験のある生徒等を受け入れるため、面接と作文のみで入学者の選抜を行うという、全国で初めての方式を採用している。中学校からの調査書の提出は求めず、学力検査も実施していない。

既に開校した桐ヶ丘高校と世田谷泉高校では、高い応募倍率になっており、チャレンジスクールに対する生徒・保護者のニーズは高い。東京都では、都立高校改革推進計画において、全都で5校のチャレンジスクールを設置する予定である。

第2 新たなタイプの昼夜間定時制高校

1 新たなタイプの昼夜間定時制高校の設置

平成14年10月に策定された都立高校改革推進計画・新たな実施計画においては、定時制課程の単位制高校（新宿山吹高校型）とチャレンジスクールに加え、新たなタイプの昼夜間定時制高校を、単位制・普通科で昼夜開講の三部制の学校として設置するとしている。

新たなタイプの昼夜間定時制高校は、現在、4年かけて学んでいる夜間定時制課程に通う多様な生徒を受け入れていくこととしている。生徒と教師の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるためにホームルーム指導を重視する等、学年制の良さを残した単位制の学校とし、また、総合学科の特長を取り入れて職業に関する専門科目等を設置するとともに、資格取得や大学等への進学などを含む様々な進路希望にも対応できるよう、多様で弾力的な教育課程の編成を行うとしている。

2 基本的枠組み

(1) 課程等

定時制課程の普通科（単位制）とする。

(2) 学期

前期・後期の二学期制とする。

(3) 修業年限

4年を基本とする。ただし、他部等での授業を履修することなどにより3年間でも卒業を可能とする。

(4) 多部制

午前部・午後部・夜間部の三部制とする。

(5) 学校規模

各学年、8学級ないし10学級までの規模の学校とする。

3 受け入れる生徒像

「定時制高校検討委員会報告書」（平成14年5月）では、新たなタイプ

の昼夜間定時制高校について次のような生徒を受け入れるとしている。

- ア) 自らの生活習慣に合わせて、学習形態を選択したい生徒
- イ) 学習歴の差から、学習の遅れが生じている生徒
- ウ) 夜間部においては、働きながら学ぶ生徒や学ぶ意欲を持つ中高年生徒

現在、夜間定時制に通う生徒の実態から、具体的には、次のような様々な生徒の受け入れが想定される。

- ア) 小・中学校で不登校経験のある生徒
- イ) 生活習慣、学習習慣等に課題がある生徒
- ウ) 経済的な理由から働きながら学ぶ生徒
- エ) 学ぶ意欲のある中高年の生徒

なお、様々な理由から、全日制課程の高校等を中途退学した生徒も幅広く受け入れていく。

4 基本的な教育目標

「定時制高校検討委員会報告書」(平成14年5月)では、次のような「育てたい生徒像」を示している。

- ア) 基礎的・基本的な学力を身に付け、社会的に自立していける生徒
- イ) 社会人としての規範意識を身に付けた生徒
- ウ) 正しい勤労観・職業観を身に付けた生徒

受け入れる生徒像及び育てたい生徒像に基づき、次の3つを基本的な教育目標とする。

- ア) 一人一人の能力に応じたきめ細かな指導により、基礎的・基本的な学力を身に付けた生徒の育成
- イ) 異年齢等の多様な友人同士・教師・地域との交流等を通じて、豊かな人間関係を築ける生徒の育成
- ウ) 望ましい勤労観・職業観、社会人としての規範意識を身に付け、社会的に自立していける生徒の育成

5 教育課程の基本的な考え方

(1) 基礎・基本の重視

多様な生徒に対して、一人一人の能力に応じたきめ細かな指導を行うことにより、基礎・基本の定着を図る。また、学び直しのできる学校として、第一・二学年次には、個々の生徒の学ぶ意欲を喚起するため、徹底して「わかる授業」を実施する。

このような考え方に立ち、具体的には次のように対応する。

小・中学校からの学習の積み上げが重視されるため、苦手意識をもつ生徒が多い国語、数学、英語については、基礎学習を徹底する。

国語、数学、英語、地理歴史、公民、理科などの教科について、生徒の興味・関心などに応じた学校設定科目を設置する。

入学対象として想定される生徒の特性等に応じて、学習が進められることができるよう時間割を工夫する。

習熟度別学習、個別指導及び取り出し授業など、生徒の到達度に応じた多様な指導形態を導入する。

担当教科や学年の枠を越えて、授業の空いている教員が指導補助に入ることや、チーム・ティーチングによる授業を展開する。

(2) 生徒の多様な進路希望への対応

第三・四学年次では、基礎・基本の定着の上に立って、生徒の多様な進路希望に対応できる、柔軟で弾力的な教育課程の編成を行う。生徒の具体的なニーズに即して教科・科目を設置するとともに、他の都立高校との連携等、学校外における学修成果の単位認定を積極的に行い、生徒の多様な進路希望への対応を図る。

生徒の進路希望や多様なニーズに対応できる魅力的な選択科目の設置

ア 総合学科の特長を取り入れ、専門教育に関する科目を設置する。

(例) 商業科目(ビジネス基礎、コンピュータグラフィックス等)

工業科目(工業技術基礎、レタリング、染色等)

家庭科目(ファッションデザイン、被服、住居インテリア等)

イ 資格取得を可能とする選択科目を設置する。

(例) 商業科目(簿記、ワープロ、情報処理等)

工業科目（危険物取扱、情報処理、電気工事等）

福祉科目（手話、点字、ホームヘルパー等）

ウ ボランティア活動、保育体験、介護体験等の体験活動を学校設定科目として設置する。

エ 大学等への進学希望を実現するための選択科目を設置する。

学校外における学修の成果の単位認定

ア 学校間連携の推進

特色のある教育課程を編成している、他の都立高校の教科・科目を履修する機会を設け、生徒の学習希望に応える。

a 他の昼夜間定時制高校との連携

b 通信制高校との連携

c 単位制の全日制高校との連携

d 他の夜間定時制高校との連携

イ ボランティア活動等の学修の成果の単位認定

夏季休業中のNPOへの参加等ボランティア活動等の実績に応じて単位認定する。

ウ 大学及び専修学校等における学修の成果の認定

大学及び専修学校等における科目等履修生・公開講座受講生等としての学修を単位認定する。

エ 実務代替の導入

職業に関する科目と密接な関係を有する職業・職務（建築実習、製図、調理等）に従事し、成果があると認められる場合には、その実務を評価して単位認定する。

オ 大学入学資格検定合格科目の単位認定

入学前又は在学中に大学入学資格検定規程の定めるところにより、その受検科目について合格点を得た場合には、それに相当する科目の単位を認定する。

カ 技能審査の成果の単位認定

実用英語技能検定2級等、技能審査に合格した場合には、自校の科目履修とみなし単位認定する。

(3) 豊かな人間関係の育成

多様な生徒を受け入れ、学校生活への円滑な適応を図っていくために

は、生徒と教師及び生徒同士の相互理解を深めるとともに、様々な悩みを抱える生徒に対し、きめ細かな対応が求められる。

このため、単位制の高校であるが、入学年次ごとのホームルームを編成することにより、生徒が安心して通うことができる居場所としての役割を果たすとともに、生徒と教師、生徒相互の信頼関係をつくる場とする。また、常時生徒の相談等に応じられるよう相談体制の充実を図るとともに、学校行事や部活動等の活性化や家庭・地域との連携等を通じて協調性や帰属意識を育成していく。

ホームルーム活動の重視

ア 入学年次ごとのホームルーム編成とし、第一、二学年次では、必修科目を中心にホームルーム単位での授業が可能となるようカリキュラムを編成する。

イ 第一、二学年次では、週1回のホームルーム活動と毎日のショートホームルームの時間を確保する。

ウ 第三、四学年次では、週1回のホームルーム活動を確保する。

エ ホームルーム単位の活動以外に、教育活動に参加する様々なグループ活動を支援していく。

相談機能の充実

ア 入学前に、ガイダンス等を積極的に行い、生徒の不安を取り除き、学校生活への円滑な適応を図る。

イ 第一学年次については、複数担任制とする。

ウ 生徒の特性に応じて適切な措置が講じられるよう、入学後できるだけ早期に三者面談を行い、生徒・保護者・教員相互の理解に努める。

エ 教育相談に専門的知識をもつ教員を中心として、すべての教員による相談体制の整備・充実を図る。

オ 定期的な面談や随時の教育相談を実施する。

カ スクールカウンセラーの配置や心理学等を専攻している大学生等の活用を積極的に推進する。

キ 保健室機能を強化・充実させる。

学校行事、部活動及び生徒会活動の充実

ア 部活動、生徒会活動及び学校行事は、三部合同で実施することにより活性化を図る。

イ 部活動等を通じて、異年齢等多様な生徒同士の交流を深め、社会性や協調性を育成していく。

ウ 部活動等は、希望する生徒全員が教員の適切な指導のもとに参加できるように、例えば二部と三部の間に活動時間帯を設けるなどする。

エ 第一学年次に移動教室等の学校行事を実施し、生徒同士の交流を深め学校に対する帰属意識を持てるようにする。

家庭・地域との連携

ア 地域や学校の実態等に応じて、三部合同でPTAを組織するなどPTA活動の活性化を図る。

イ 大学生や地域人材等の地域の教育力を、特別活動や総合的な学習の時間などの学校の教育活動に活用できるようにする。

ウ 保護者だけでなく、地域住民や地域の様々な機関・組織が積極的に参加できる学校行事を実施する。

エ 学校での学習の社会的意義を実感できるよう、日頃の学習成果を発表し、地域から評価してもらう場として体験学習発表会などを実施する。

(4) 望ましい勤労観・職業観と社会性・規範意識の育成

生活習慣等に課題がある多様な生徒を受け入れ、社会や学校における基本的なルールを守り、社会人として自立していける生徒を育成していかなければならない。

そのため、進路指導を充実させ、望ましい勤労観・職業観の育成を図るとともに、ボランティア活動等の体験学習を通して、自らを律して他者と協調していく態度等を育てる。また、家庭や地域との連携を通して、社会人としての基本的なルールを身に付けさせ、併せて、生徒の健康・安全のための指導を充実させる。

進路指導・進路学習の充実

ア 望ましい職業観や生き方を考えさせる科目として「産業社会と人間」を設置する。

イ 「総合的な学習の時間」の中で、自己の将来を見つめ、望ましい職業観・勤労観を身に付けさせるよう「キャリアガイダンス」を実施する。

ウ 社会生活を営む上で必要となる技術や資格取得のための科目を設

置する。

エ 進路に関する相談機能等の充実を図るため指導体制を整備する。

体験学習の重視

ア ボランティア活動等の体験学習を教科・科目に位置づけて実施する。

イ インターンシップや実務代替について積極的に単位認定する。

6 その他

(1) 教員の確保等

基本的な考え方

新たなタイプの昼夜間定時制高校には、現在、夜間定時制課程に通っている様々な学習歴や生活習慣をもった多様な生徒を受け入れていく。学力差が大きく、生活指導上も多くの課題を抱えた生徒に対して、適切な指導ができる教員を確保し、学校が一丸となって課題解決のために組織的に対応できる指導体制の整備が不可欠である。

求められる教員像

多様な生徒に対して適切に指導していくためには、教科に関する専門的知識と指導力だけでなく、次のような資質をもつ教員が求められる。

ア 生徒指導に豊富な経験と強い熱意をもち、様々な課題を抱える生徒を積極的に受け入れていこうとする教員

イ 生徒の心の悩みなどにきめ細かく対応できる教員

ウ 組織の一員としての自覚をもち、互いに協力しあって生徒指導を推進していくことができる教員

エ 生徒の家庭や地域の様々な人々と円滑な関係を築いていける教員

オ 教育相談に専門的知識をもつ教員

人材の確保

熱意と意欲があり生徒の心の問題にも向き合える教員を確保し、その能力を育成していくためには、次のような対応を図るよう検討していく必要がある。

ア 公募制の実施

イ 異校種間での幅広い人事交流

ウ 多様な生徒に対する指導方法や生徒理解の研修

学校の組織的な対応

現在の夜間定時制課程では、多くの課題を抱える生徒に対して、個々の教員が個人的に対応することにより、課題解決を図っていることが多い。夜間定時制高校に比して、一定の教員数が確保できる昼夜間定時制高校では、課題がある生徒に対して組織的に対応することで、指導上の効果をより一層高めることができる。

校長は、学校の特性と生徒の実態を踏まえて学校経営計画を作成し、明確な組織目標の下に、全教職員が一体となって課題解決にあたる組織体制を整備する必要がある。

(2) 入学者選抜

基本的な考え方

新たなタイプの昼夜間定時制高校では、多様な生徒を幅広く受け入れていくこととしている。そのため、入学者選抜においては、希望者ができるだけ受検しやすいように選抜方法や募集時期等を定めることが必要である。

選抜方法

入学者選抜については、各学校で独自に検査問題を作成するなど学校で受け入れたい生徒が入学できるような対応を検討する。

募集回数及び時期

入学希望者ができるだけ受検しやすいように、次のような対応を検討する。

ア 受検生に受検の機会を複数回提供するため、あらかじめ定員を分けて募集する分割募集方式とする。

イ 入学希望者ができるだけ受検しやすいように、募集時期については都立高校全体の入学者選抜日程等を踏まえて定める。